

## 植生学会 東日本大震災復興への提言

東日本大震災で被災された方々、関係者の方々には心よりお見舞い申し上げます。  
災害からの1日でも早い生活の復興を祈念いたします。

この度の災害では多大な人的被害の陰で海岸林を含めた地域の植生や生態系も破壊されました。人間生活の復興と同期して地域の生き物の再生にも配慮されている方もおられるかと思えます。災害で一度は失われた干潟や海浜植生も数ヶ月経過し、草が生え、樹木も緑葉を茂らせているところも数多くみられます。地域の自然資源である植生や植物からの言葉をしっかりと読み取り、自然を再生し、活用することが地域の安全や発展には欠かせないと考えます。復旧、復興に際しまして植生学の立場からの以下のような提言をいたします。植生学会は、被災地の既存の植生に関する情報を提供すると共に、今後、被災地の植生の被災状況や再生過程に関して調査研究をすすめ、以下の提案に関連した情報を発信して参ります。

### 1. 多様な自然の植生・生態系を保全し、それを活かした復旧、復興を提案します

地域の生活、特に農林業、水産業は長い時間をかけてできた生態系の基盤の上で成り立ってきました。沿岸部のブナなどの自然林が、海産物の育成に寄与していることは良く知られているように、地域の生態系、その骨格としての自然度の高い植生を保全することが、安定した地域産業の基盤となります。また、海浜の砂浜や湿地、崖地には自然の草原や低木林が成立しており、津波後に再生したり、新たな群落を形成しつつあるところも見られます。在来植物が侵入しつつある場所は荒地のように見える場合もありますが、その中には、環境を反映した本来の自然植生が含まれている場合もあります。復旧、復興にあたっては、これらの多様な自然の植生・生態系を可能な限り保全し、観光や教育、地域文化形成などに活かしていただくことを提案いたします。

### 2. 自然の海岸林を参照した海岸林の保全・再生を提案します

このたびの震災では、植栽された海岸林の多くが津波により失われましたが、一方で、海岸林が被害を軽減したことも認められています。今後、防災林として海岸林の人工的な再生や新規造成が進められるかと思えます。一方、岩手県南部～茨城県では常緑広葉樹、岩手県北部～青森県では夏緑広葉樹を主体とした多様な自然林が厳しい環境の中で海岸林として成立しています。海岸林の再生に際しては、視覚的景観や観光の視点、従前のマツ林の復元のみでなく、長期にわたって維持可能な自立性を考慮して、各地域本来の生物多様性に富んだ自然生の海岸林をモデルとした再生を提案します。

### 3. 外来植物の植栽は控え、その繁茂の防止にご留意ください

砂防目的で植栽されてきたニセアカシアなどの外来植物には分布拡大能力が高いものが多く、一旦定着すると、除去が困難です。しかも、それらの植物は地域の本来の植物の生育地を攪乱し、生物多様性に深刻な被害をもたらすことが心配されます。長い間、人々と共存してきた地域の自然を守るために外来植物の植栽は控え、また津波などの被災に伴う繁茂の防止にご留意ください。